

# 定住自立圏構想 Action Plan

Version 2 (12月14日)

資料1

人口交流分科会

# 活動俯瞰図

短期①

中期②

長期③

定住

■教育的環境充実  
■多文化交流促進

■環境に力点を置いた将来コアコンピタンス(基幹産業)育成

自立

■東海圏北部交通拠点への環境整備

**①外国人子供教育**

外国児童のための日本語指導事業

- 外国人雇用の確保(日本語ができないと就労できない)
- 外国人進学率の向上

外国人の子どもの教育

- しっかり教育を受ければ社会人になったときに犯罪に手を染めないように

**②-1スポーツをコアにした住民の教育**

一人一芸大作戦!!

- みのかもで育つ子は、皆、「何か一つ」秀でたものをもつような取組をする
- まちのイメージアップ
- 子どもに自信、まちに自信
- 具体的には?**

スポーツ王国みのかもの実現

- 元気な町づくりの一环とする
- 青少年健全教育にある

柔剣道場の建設(民間→美濃加茂高校)日本の精神の復活

- 日本の伝統スポーツの振興を図る
- 剣道、柔道等の武道の充実
- 日本の伝統的礼儀、作法を身につけさせる
- 今、青少年が不足している部分をカバー

ゴルフ振興事業

- 当地域の特徴ある(誇れる)スポーツをもつ

**②-2和文化をコアにした住民の教育**

和文(禅)教育の導入

- 和文(禅)の理解
- 社員教育への活用拡大
- 当地域の特徴ある人づくりができる
- 正眼寺の協力→禅(和文(禅)の一つ)
- みのかもを誇れる正眼寺を文化の発信場とする

**③安全な教育環境実現**

電子マネーカード活用による学童セキュリティ事業

- 学童行動のトレザビリティ
- 学校入退室のセキュリティ対策
- 学校⇄家庭 情報共有ツール

**①多文化共生を目的とした機関の設立の方法**

地域のリーダー(外国人)

- 外国人の一般的な問題を少しずつ解決する
- 外国人の文化を日本人にもっと伝える

定住外国人イメージアップ大作戦!

- 美濃加茂のイメージを「外国人が多いまち」から「外国人で栄えるまち」へと昇華させる
- 市民には、さらなる共生の意識を
- 外国人も「よい市民」であろうとする意識づけになる(子どもたちにはがんばるモチベーションを)
- 成功のモデル都市として、他地域から目指されるまちになる

ワールド大盆踊りみのかもフェスティバルの開催

- 多文化共生の推進
- 地元住民の交流・ふれあいの場
- 全国的なものへの発展性もある
- 地元住民と外国人のふれあい

政策的路線?



: 定住に向けた活動



: 定住活動を支える自立活動

**①~②エコ/農業を核とした循環型社会モデル実現**

農林体験の実施

- 休耕田畑の商品化
- 農業ノウハウの伝承
- 作物の直販拡大
- 山間部の休耕している田畑の活用
- 教育的にも効果
- 農業体験観光にも利用

自場産業への協働IS活用環境構築

- 農業・建築業・小売業の事務効率化と経営強化

自然と生きるまち美濃加茂

- 山・森・川・田・畑「自然観光」
- 10~20年後は食料確保が国家的課題に→「生き残れるまち・美濃加茂」
- 農業生産力の向上**

ソーラーの町づくり

- モデル市町村を目指す
- 環境に優しいまちづくりができる

地元産業発展

**②~③競争力を持った地域主体のビジネスモデル構築**

簡易医療検査とそのDATA BASE化

- 未病疾病予防(Zero Defect)に向けた健康維持治療

蜂屋柿生産へ地域内メカトロニクス活用

- 国際ブランドに向けて、品質(トレザビリティ)、供給量(省力化)をアップさせる

次世代産業(及びその周辺事業)の育成

- ×大量生産・大量消費→◎環境配慮
- モノが変わる、産業が変わる→先を見た産業育成
- 地域経済活性化、雇用の拡大
- 「先進都市・みのかも」既に変わったモノ多い

**③交通発展**

中部循環型交通ネットワークを既存鉄道構築(高小線、東海道、中央、多田各線利用)

- 朝夕は、名古屋への通勤インフラとして活用
- 昼間は中京圏工業製品の輸送インフラとして活用
- 美濃加茂市北部拠点として活用

公共交通機関の整備

- 地元住民の利便性の向上

物流ハブ機能整備事業

- 国道・高速が集約されている地の利を活かす
- 日本の物流の「へそ」を目指す
- 幹線沿いの商業活性化、雇用拡大
- 企業(事業所)の誘致につながる

大型ショッピングセンターを中心とした複合施設の誘致

- 地元住民の利便性の向上
- ベッドタウンとしての魅力

# 全体構想案

← 中短期実現 →

← 中長期期実現 →

## 域内魅力アップモデルによる定住化促進

★スポーツを核にした活性化

★多文化共生圏の実現

★安全に暮らせる都市造り

★「和」コンセプトによる市民教育

定住

原資を活用する

原資を生み出す

ファンド

自立

活動全体を  
コーディネイトする  
推進母体  
(NPO)

★エコを核としたビジネスモデル構築

★農業の発展系ビジネスモデル構築

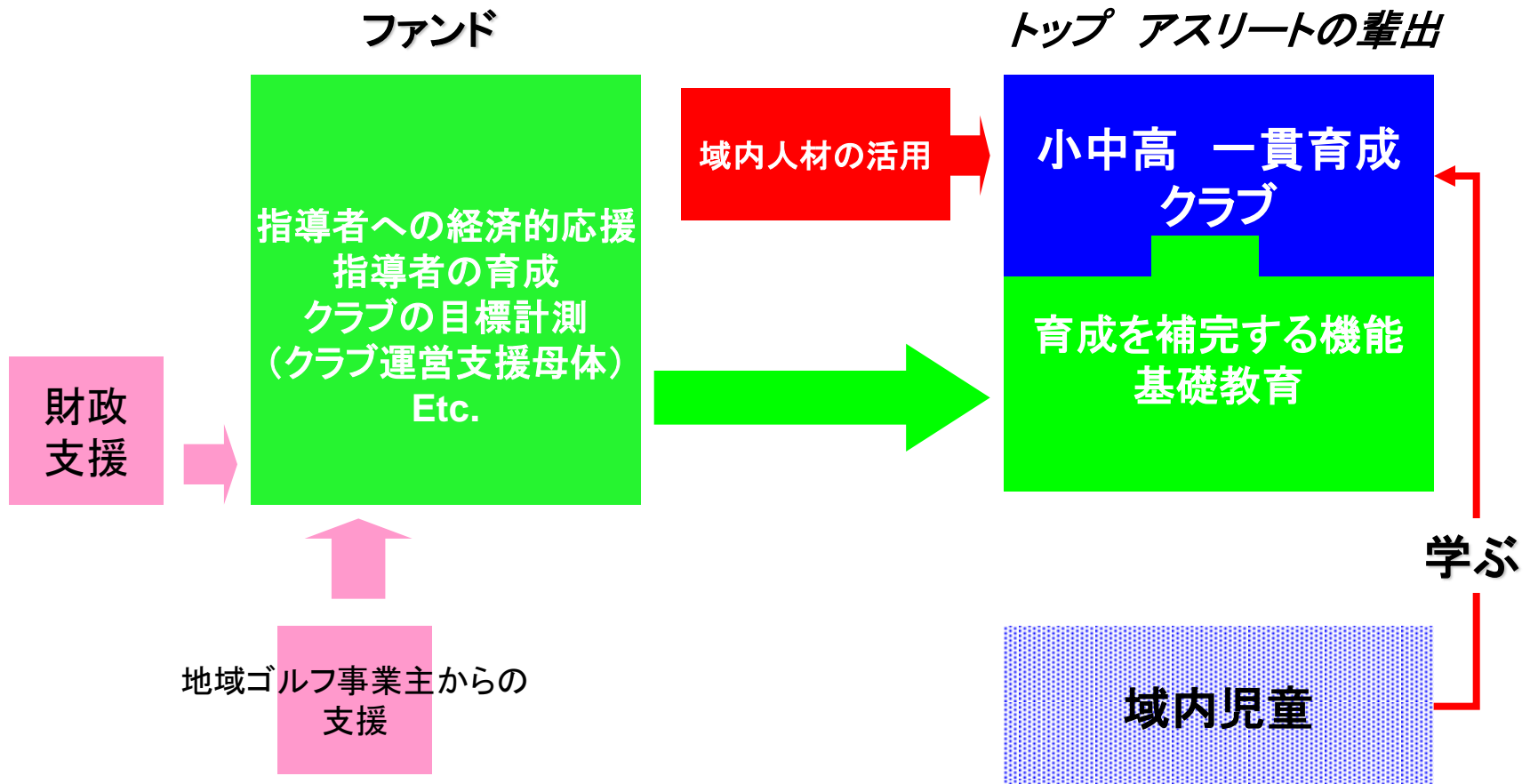
★競争力を持った地域経済モデル構築

★中部圏循環交通網とコア都市宣言構築

## 地域循環型モデルによる経済活性化

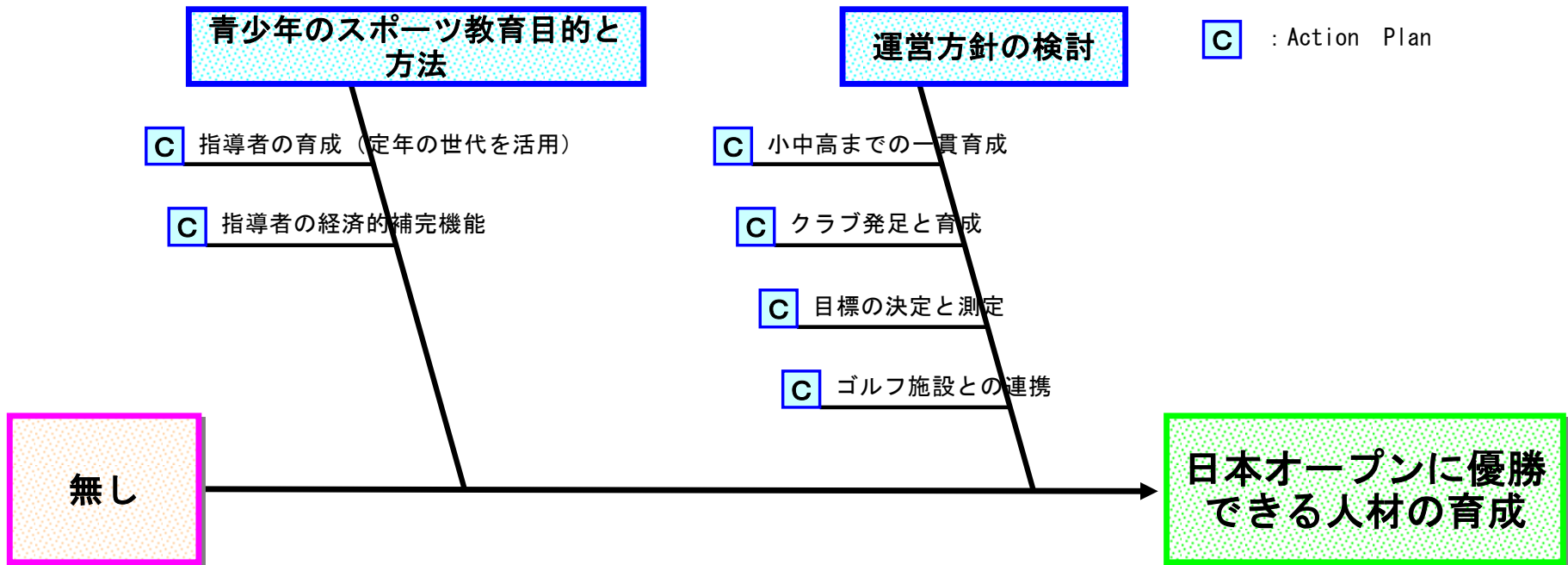
# スポーツを核にした地域活性化プラン

トップ アスリートの輩出(ゴルフ)による地域活性化→年間運営費用50百万円



# Actionを推進する活動骨子

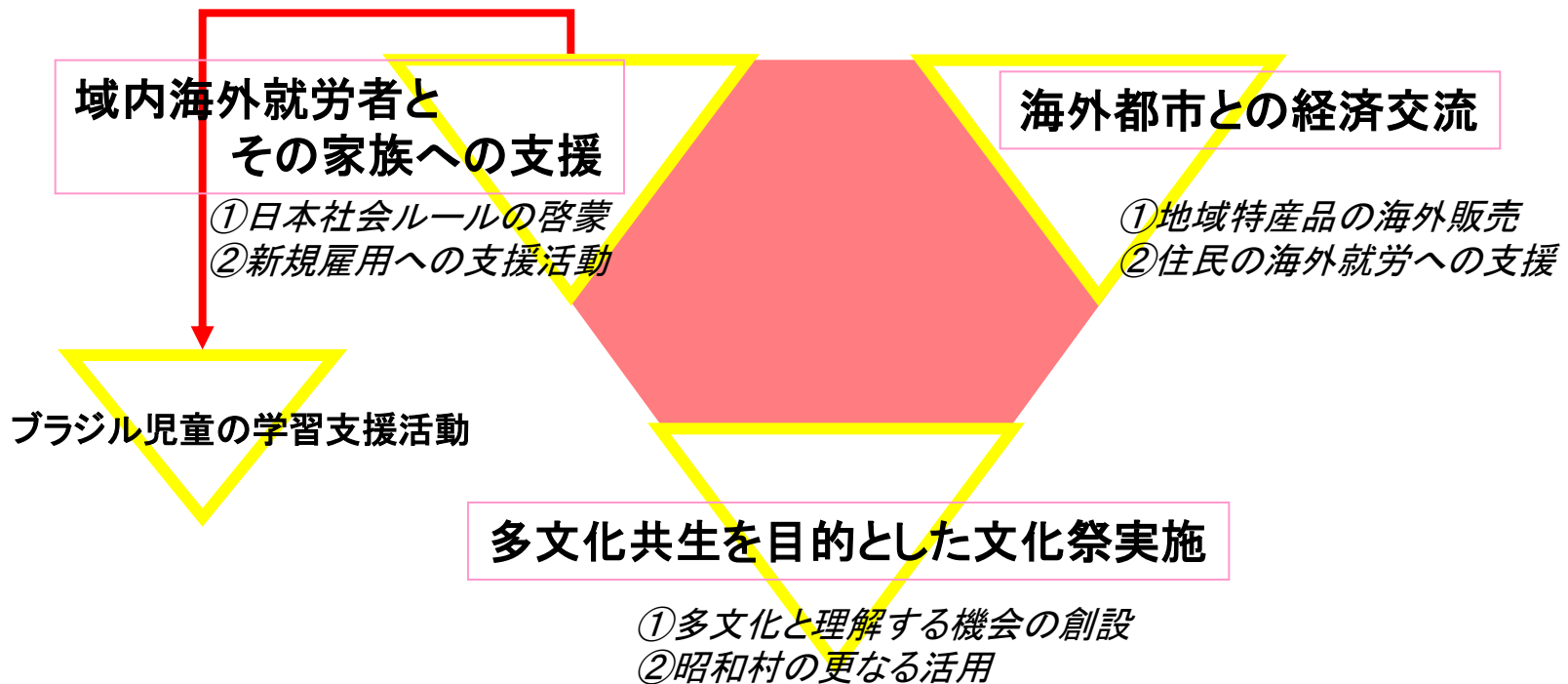
## スポーツを核にした活性化



# 多文化共生を目的とした推進プラン

## 多文化共生圏の実現

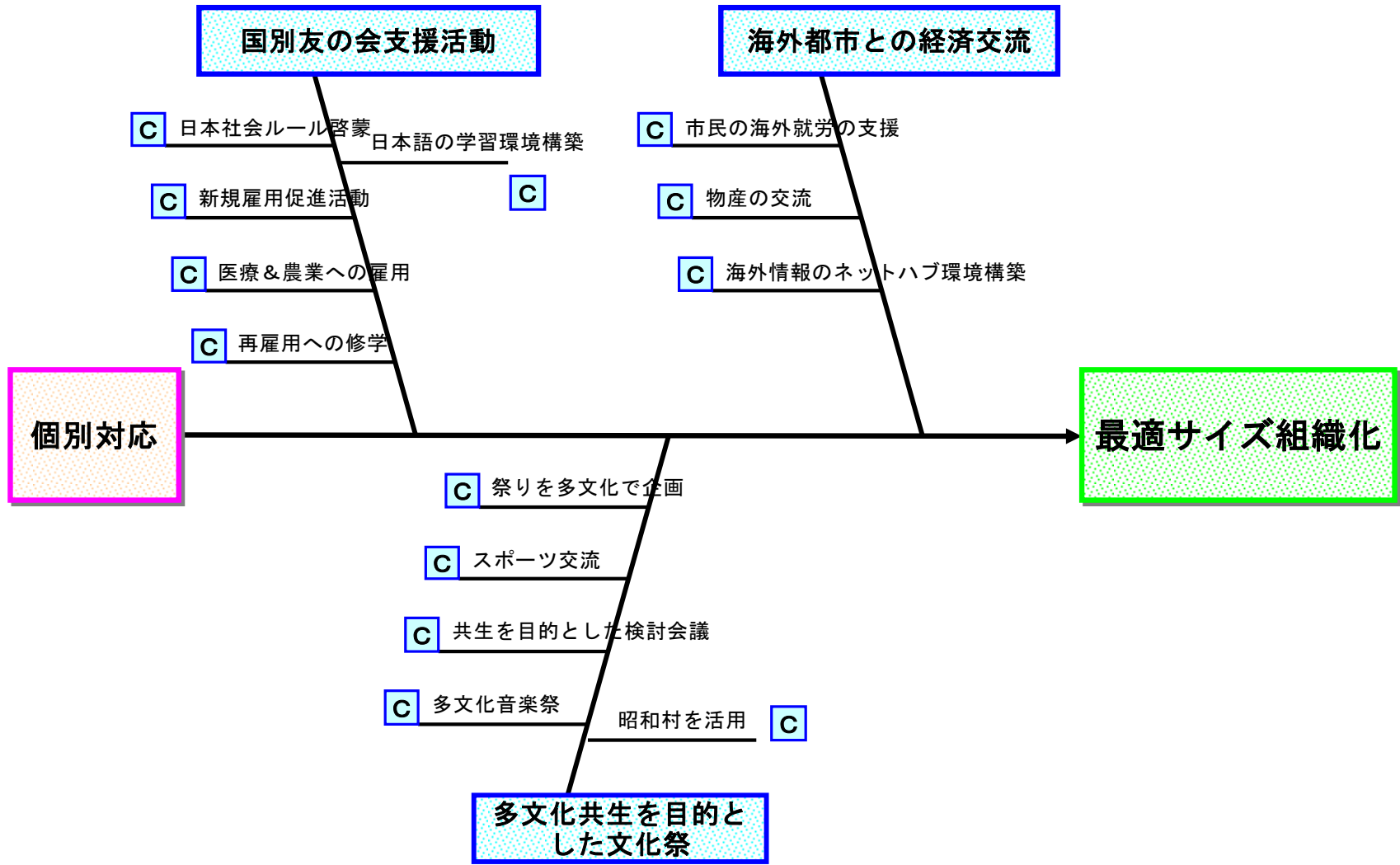
多文化共生の拡充に向けた活動→年間活動費用1.5億円



# Actionを推進する活動骨子 ①

## 多文化共生圏の実現

**C** : Action Plan



# Actionを推進する活動骨子 ②

## 多文化共生圏の実現

**C** : 行動計画

### 教育目的とプログラム

**C** 日本語習得

**C** 社会ルールの取得

**C** 義務教育への補完プログラム

### 教育機関の構想

**C** ブラジル友の会を活用

**C** 費用スキームの検討

### 学校教育への補助学習機能の設置

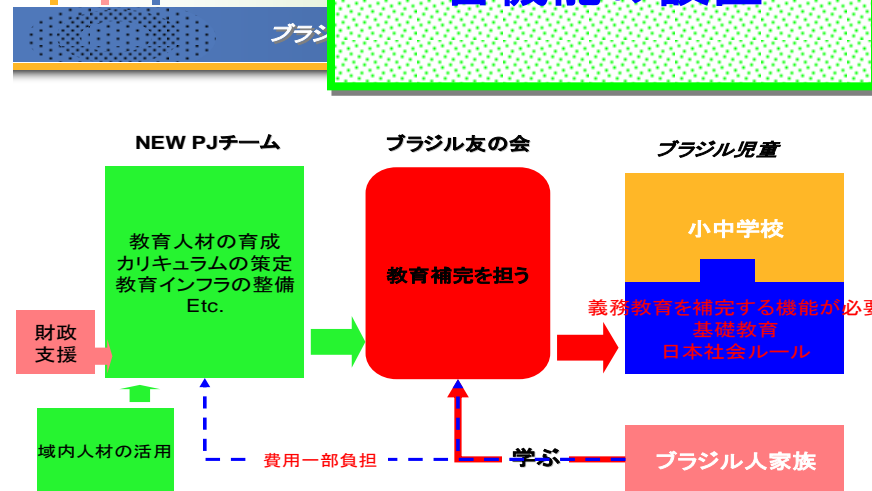
無し

**C** 教育インフラの検討

**C** 教育人材の採用

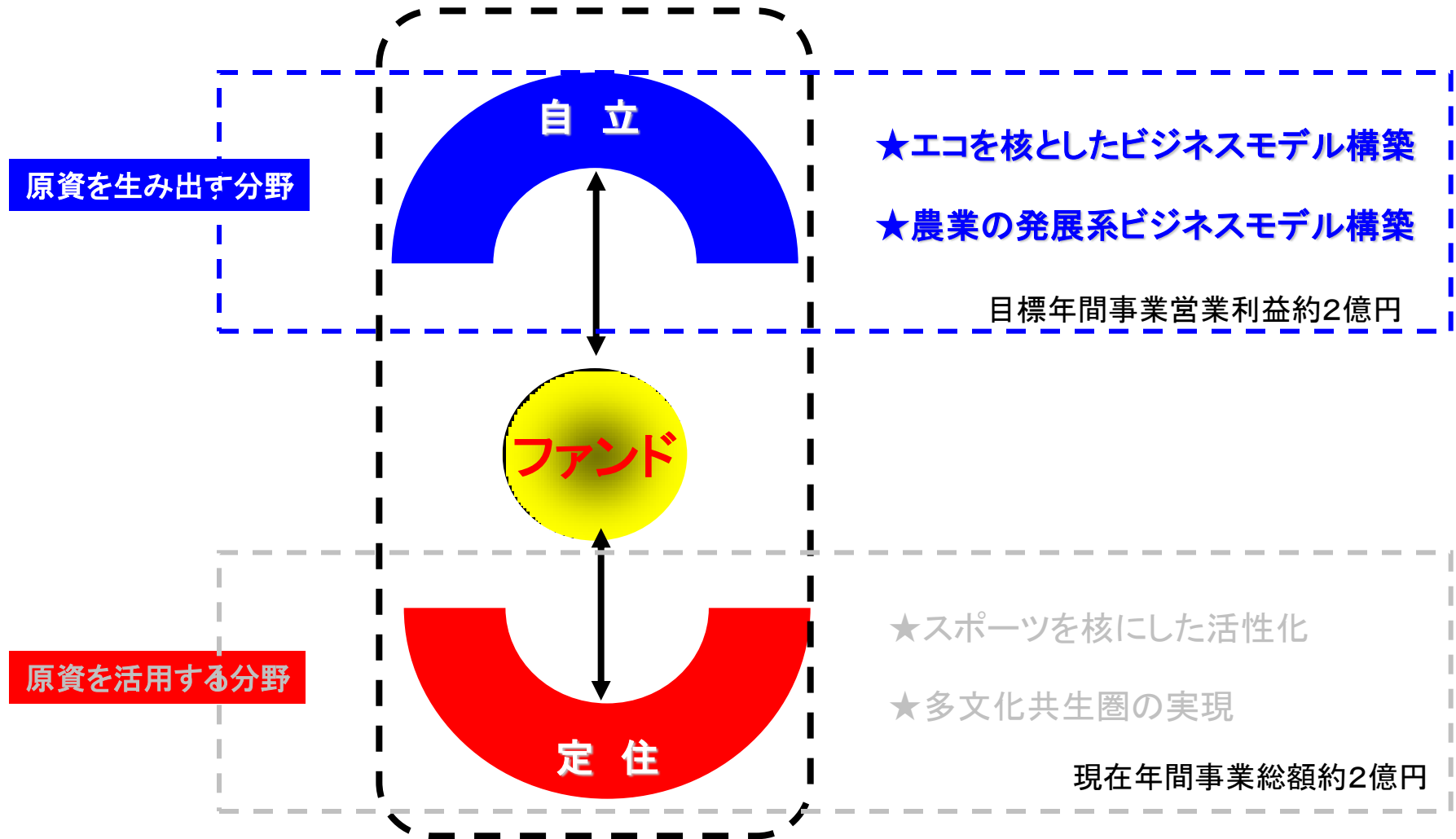
**C** ポルトガル語のできる人材育成

### 教育人材の育成





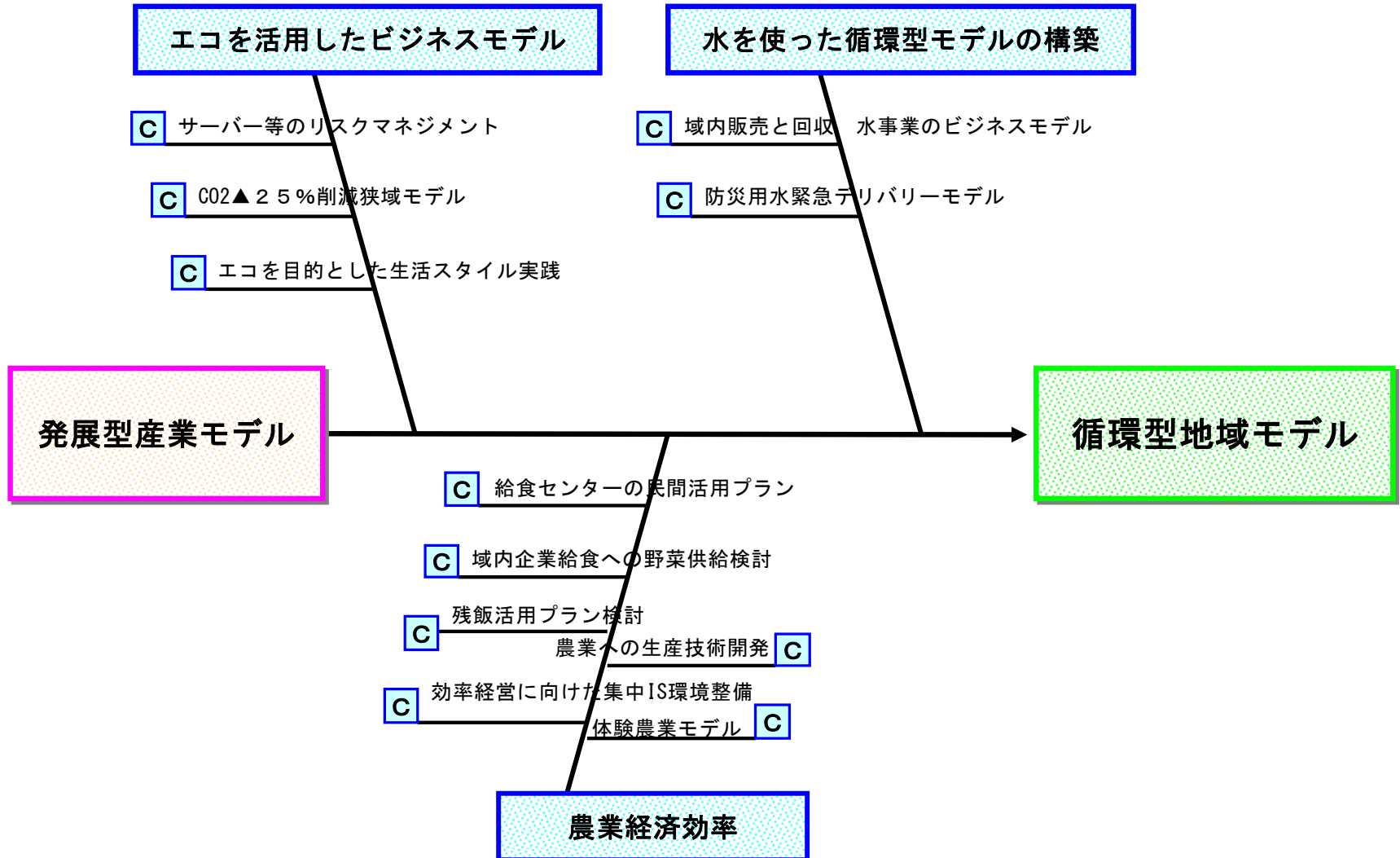
# 地域循環型経済活動による地域経済の活性化



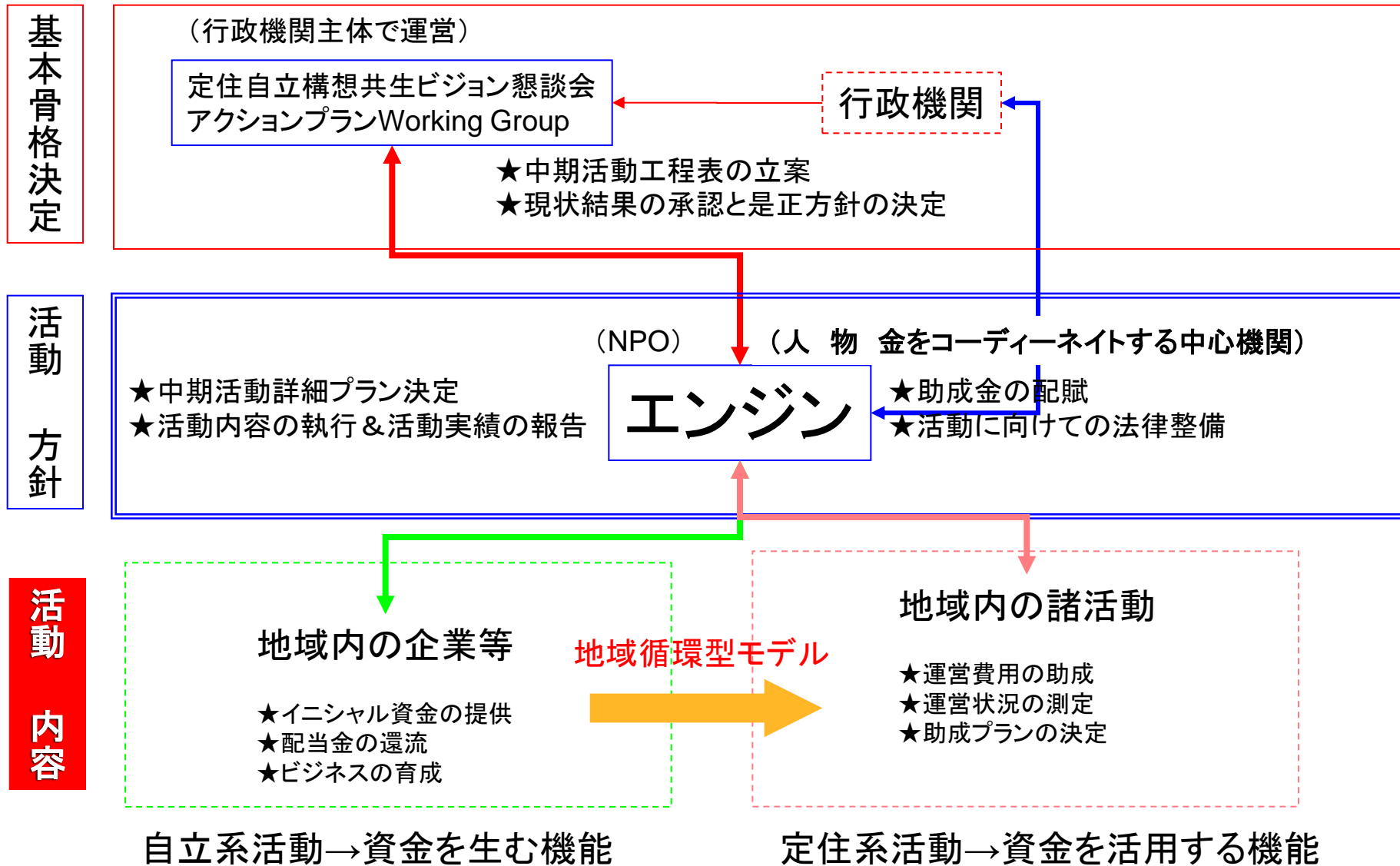
# Actionを推進する活動骨子

## 地域循環型モデルによる経済活性化

**C** : Action Plan



# 活動エンジン俯瞰図



# エンジンの運営案①

## エンジンの検討

Aエンジン(NPO)組織と機能の検討を行う。

組織項目

有識者(地域内の定年退職者)

大学生(地域内)

B組織を設立するまでの工程表作成(スケジュール表作成)

C組織のルール化と自立事業 定住活動のリンケイジプラン策定

# エンジンの運営案一②

## 自立系モデル

A 該当ビジネスのイニシャル投資費用を調達する機能

方法→ 国&地方自治体から **NPO債の起債**

(法律上 NPO債の起債を運営できる制度整備が必要)

(NPO債は、有限&無限の責任を負わない精度。有限責任は、国&地方自治体からの助成金を積み立て引き当てる。)

B 該当ビジネスの利益(経常利益)を事業主と公平に配分するルールの構築

(1/3 将来投資 1/3事業主 1/3はファンドに配当)

(当該事業の経常利益に対する法人税&消費税等の優遇措置制度整備が必要)

C 該当ビジネスの育成(Incubate)を促進する

事業主だけに頼らず事業をコンサルタントし(且つ営業も含む)事業の拡充を進める。

出資回収期間を事前に事業主と合意して実施する。(ROIを計測する。)

# エンジンの運営案③

## 定住系モデル

A 該当モデルの運営資金を定期的 & 不定期に補助するルールの構築  
(活動費用全体を検討し、その内受益者負担分を除いた資金を助成する。)  
(その助成に関して、贈与税 & 消費税等の優遇措置制度整備が必要)

B 定住に向けた活動費用全体と自立ビジネスの配当金総額を鑑み優先順位案を決める機能  
(ファンドの中立性を維持する為優先順位を承認し、事業を監査する第三者機関が必要)

C 当該モデルの発展 & 効果を測定するKPIを決め、定期的に測定する機能  
(測定結果を第三者機関に報告し、その当該モデルの今後の存続を決める)



EOF